

微細部品検査で新事業

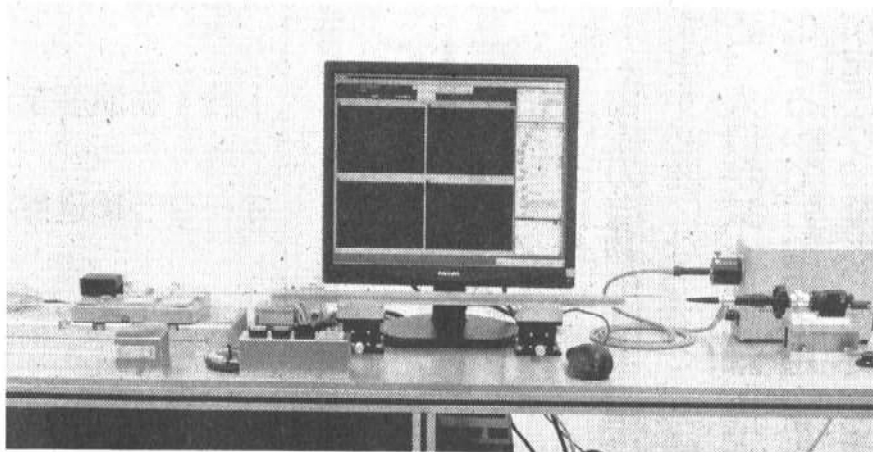
二九精密 ノウハウを外部展開

【京都】二九精密機械工業（京都市南区、二九良三社長）は、自社で活用する医療用分析装置向け部品の品質検査技術やノウハウを外部展開する。自社開発した検査装置の外販や顧客の要望に合わせた検査装置のカスタマイズ、検査の受託を行う。測定自動化なども進めており、顧客のニーズを開拓しながら早期事業化を目指す。

二九精密機械工業は、物が付着しない品質が医療用分析装置に搭載される分注ノズルを受託加工している。同社が扱うノズルは外径2ミリの3リットル、内径1ミリ以下が主流で、内面に傷や凹凸がなく残留物を測定する装置も開

発している。

2020年から展示



会に出展して顧客のニーズを調査。顧客が検査したい対象物によって装置のカスタマイズを想定する一方で、最近では受託検査の引き合いも増えていることから、本格的な社外展開に乗り出す。

自社開発したパイプ内面粗さ測定装置「アラサミール」

機「アラサミール」は、内径0・5ミリ以上の細いパイプでも内面を非破壊で測定できる。パイプ内にファイバースコープを通し、電荷結合素子（CCD）カメラで撮影。内面に凹凸が多いと光が反射して明るい画像になり、パイプ内面の粗さと画像の明るさの相関データを基にした計算式で粗さを算出する。従来はパイプを半分に分けて測定する破壊検査で、検査に時間がかかるなどの課題があった。

同社は半導体製造装置や分析装置、医療向けに精密で微細な部品の受託加工などを手がける。売上高は非公表だが23年3月期は前期比約25%増を見込む。